

感染症

トトリプルデミック注意

感染症の世界的な流行のことをパ
ンデミックと呼びます。2020年
に始まった新型コロナウイルスの流行が、ま
さにパンデミックの状態でした。

現在、そこに新たにインフルエン
ザ、マイコプラズマが加わり、3つ
のパンデミック＝トリプルデミック
が起きています。

●新型コロナウイルス

2020年流行が始まった新型コ
ロナ。今でも年に2回ほど、流行が
起きています。変異株が次々に出て
きて、終わりのない状況です。
現在、流行はなだらかな状況で、
次第に増えているようです。

●マイコプラズマ

マイコプラズマは4年に一度流行
ると言われていて、オリンピックの
年に一致しています。4年ほどする
と免疫を持たない子どもたちが増え
てくるためのようです。

今年流行っているのは、8年間に

流行していた型。型が変わったので、
さらに多くの子がかかりやすくなっ
ています。

小中学生に多いのですが、年齢の
小さな子や親御さんにも移っていま
す。抗生剤の効きもいまいちで、な
かなか治療に苦慮しています。

●インフルエンザ

今流行しているのはインフルエ
ンザA型で、pdm09亜型。これは
2009年に始まった当時の新型イ
ンフルエンザです。

そこから10数年はひっそりしてい
ましたが、ここに来て大流行に至り
ました。

症状は発熱、全身の倦怠感、咳、
鼻水、咽頭痛が主です。

●診断

これらの治療は異なりますので、
まずは診断が必要です。発熱外来で
インフルエンザと新型コロナウイルスを見分
けるようにしています。

鼻汁粘膜の採取をし、迅速検査を
することで分かります（例外もあり
ますが）。

問題はマイコプラズマ。喉の奥か
ら検体を取らないといけないので、
当院では医師が診察時に行っていま
す。この迅速検査は陽性率が必ずし
も高くなく、臨床診断で決めること
が度々あります。

●試薬や薬剤の不足

診断のために大切な診断ですが、
今また検査薬の不足が取り沙汰され
ています。

マイコプラズマの迅速検査（抗原
定性検査）は一時期不足気味。当院
では現在は過不足なく実施できま
すが、全ての医療機関でそうはいっ
ていないようです。

より確実なのは抗体検査ですが、
こちらは外注業者が扱っています。
先日その業者から、需要が大幅に伸
びたので、試薬不足になり、注文は
ストップするとの連絡がありまし
た。困りました。

新型コロナウイルスとインフルエンザにつ
いても、かつて不足がありました。
今は自宅での検査もできますし、医
療機関では十分に検査できる体制が
とられています。

話はそれますが、当院では丸めの
診療報酬をいただいています。6歳
までは、初診か再診かの料金設定が
あります。この中で診察や治療の全
てをまかないます。検査をしてもし
なくても同じ点数です。さらに新型
コロナとインフルエンザの検査をす
ると、「小児抗菌薬適正使用支援加
算」はいただけなくなります。

それって、感染症の対応をする
なつてこと？ 今までと違う高額な
検査をするのに、点数設定がないっ
てことは、しないで済ます医療機関
も出てきそう（当院ではそうはして
いませんが）。新型コロナウイルスやインフ
ルエンザに対して、国は積極的に取
り組んでいるようには見えません。

薬剤の不足も慢性的になっていま
す。特に咳止め、痰の薬、抗生剤な
どが不足気味。治療に支障が出るこ
ともあります。特にここ数年間、新
型コロナの流行が始まってから、そ
の傾向が強くなっています。急な需
要増に追いつかないためと思ってい
ましたが、流行のたびに繰り返され
ています。

本当に困ったことです。